

第9回送配電効率化・計画進捗確認WG

日時：令和7年6月16日（月） 14:00～14:50

※対面及びオンラインにて開催

出席者：松村座長、村松委員、河野委員、新家委員、華表委員、平瀬委員

（オブザーバーについては、委員等名簿を御確認ください）

○黒田NW事業監視課長 それでは、定刻になりましたので、ただいまから電力・ガス取引監視等委員会第9回送配電効率化・計画進捗確認WGを開催いたします。

私は、事務局・ネットワーク事業監視課長の黒田です。よろしくお願いいたします。

委員及びオブザーバーの皆様方におかれましては、御多忙のところ御参加いただきまして、誠にありがとうございます。

本会合は、対面とオンラインを併用した開催となっており、また、議事の模様はインターネットで同時中継を行っております。

本日、河野委員、平瀬委員はオンラインで御参加です。なお、一般送配電事業者各社もオブザーバーとして対面で御参加をいただいております。

それでは、議事に入りたいと思います。以降の議事進行は松村座長にお願いしたく存じます。よろしくお願いいたします。

○松村座長 本日の議題は、議事次第に記載した2件です。

議題1「ミクロ的検証の報告について」、議題2「送配電効率化・計画進捗確認WGのとりまとめについて」です。本議題の進め方についてですが、議題1、2について、事務局から連続して説明をしていただき、その後、まとめて皆様に御議論いただきたいと思います。

まず議題1「ミクロ的検証の報告について」、事務局より御説明をお願いいたします。

○黒田NW事業監視課長 それでは、資料3を御覧ください。「ミクロ的検証の報告について」ということで、今回、東北ネットワークに現地視察をさせていただいた結果の報告になります。

4ページまで飛んでいただきまして、今回、視察した個別プロジェクトにつきましては、屋外機器配置の縮小化、GISの設計見直しほかということで、東北東京間連系線の宮城丸森開閉所の新設工事を視察してございます。

より分かりやすい資料として5ページでございますけれども、こちらは開閉所の新設工

事における効率化の概要ということでございまして、当初の計画では、開閉所はG I S や引込鉄構といった屋外機器、配電盤が設置された建屋、がいし洗浄装置等を配置して、敷地面積4万2,000平米を予定しておりましたが、最新の知見等に基づいて、G I S の設計見直しやポリマーブッシング採用によるがいし洗浄装置の取りやめ、また屋外機器配置の工夫やG I S 機器類の縮小化による開閉所敷地面積のコンパクト化を図りまして、当初計画比36%の縮小ということになってございます。

視察の内容ですが、6ページを御覧いただければと思います。本年4月10日に、委員及び事務局で視察を実施したということでありまして、参加いただいた委員としては松村座長、村松委員、河野委員、華表委員にお越しいただいたということでございます。

今回の東北東京間連系線の工事である宮城丸森開閉所の新設工事については、東北ネットワークにとっては2011年以来の500kVの電気所の新設工事ということで、接続数が10回線あり、全国で3番目の規模ということになっております。

3ポツ目の効率化の概要は先ほど申し上げたとおりでございまして、これに加えて、4ポツに書いてあるとおり、このような大型工事の実施頻度は高くないということで、工事現場の365日24時間の録画に加えて、好事例・失敗事例の取りまとめ等次世代への技術継承にも取り組んでいるという説明を受けたところでございます。

次の7ページで写真も載せておりますけれども、左下にあるように、工事を実際に実施している現場を視察させていただいております。真ん中の写真が制御盤が設置されている建屋ですけれども、こちらの制御盤の間隔を従来より200ミリ短くするといったようなレイアウトの最適化も図っておりまして、こういったものの積み上げで建物の縮小化を図っているというようなことも確認させていただいたということでございます。

それから8ページに行って、10日の午後には、それ以外の効率化の取組もヒアリング、意見交換させていただいているということでございまして、2ポツにあるように、施工力に関する課題への取組として、労働環境改善のための施工例についても取組内容を確認したということであります。こういった架空送電線工事に従事する高所作業員の方は全国的に減少、高齢化にあるということで、過酷な労働環境の改善にも取り組んでいるということでありまして、具体的には左下にあるような、現場宿舍の個室化、市街地近傍への設置ですとか、モノレール通勤の採用、昇降アシスト装置の採用といったような取組についても御説明を受けたということでありまして。

また、9ページにあるように、実際の送電鉄塔の現場ですとか、基礎工事の現場も視察

をさせていただいたところでございます。

ミクロ的検証の報告については以上になりまして、続きまして資料4「送配電効率化・計画進捗確認WGのとりまとめについて」という資料について御説明をさせていただきます。

2ページに行ってくださいまして、このWGのこれまでの実施時期と内容ということでございますが、2023年5月に第1回を開催させていただきまして、これまで、おおむね3か月に1回程度実施をいたしまして、今回9回目ということになってございます。下に書いてございますとおり、マクロ的検証、ミクロ的検証、関連会社へのヒアリング、その他のテーマということで、各回様々な方にプレゼンテーションもいただきながら、議論させていただいたということでございまして、第5回の会合でお示した進め方のおとり、今回、第9回で取りまとめを行うこととさせていただくものでございます。

6ページまで飛んでいただきまして、当WGでの検証結果のサマリでございます。これまでの検証を通じて、以下のような知見を得ることができたとさせていただいております。まずマクロ的検証でございますけれども、送電・変電・配電ごとにテーマを分けて、各設備の調達に関する競争発注比率の推移ですとか、事業者間での横比較、さらには、その数値の背景にある要因分析を通じて、主要設備の特色や工事の流れ、サプライヤー構造等を明らかにしたということでございます。この分析によって、例えば、高い品質や技術力が求められる設備ですとか、輸送コストといった地域的な価格優位性からサプライヤーが限定されるケース、さらには国内の製造メーカーが1社に限定されるような設備（例えば管路のPFP管とか）等においてはサプライヤーが固定化する傾向にあるということが判明しました。また、配電工事は供給エリア全域の小規模な工事を大量に実施するほか、非常災害時には即座に復旧工事に当たる必要があるということで、地域密着型の形態が取られているなど、事業実態も確認をしたところでございます。

また、発注形態の工夫や電線・ケーブル等の仕様統一、海外製品の導入検討といった取組状況も確認したほか、サプライヤーとの協働原価改善の事例や工法・保全の効率化施策といった個別の取組事例も確認したということでございます。

次に7ページでミクロ的検証でございますけれども、こちらにつきましては、各回ごとに各一般送配電事業者ごとに2件ずつ送電・変電・配電に関する計20件の個別の効率化施策について、取組の実現効果や汎用性の観点から確認したということでございます。各事業者が掲げる効率化施策に関して、当WGでプレゼンを実施していただき、ほかの事業

者に施策の採用の検討機会を与えたことによって、業界大で効率化の取組が広がっているということでございまして、こちらは後でより詳しく説明いたしますけれども、実際に、2023年度及び2024年度の対象施策のうち、2024年度の採用状況の変化として、未採用だったものが採用に至ったという項目が延べ7項目あり、さらに具体的な採用の目途が立ったという進展があった項目が延べ9項目あったということでございます。

さらに、各事業者からは、施策採用の検討に当たって、事業者間での情報連携が行いやすい環境になったといった肯定的な意見が数多く見られたことに加え、委員の方々からも、現地視察を通じて、現場環境のほか、社内での効率化検討プロセスや推進体制が強化されていることすとか、効率化額では測れない安全や労働環境に配慮した取組状況の理解が深まったといったコメントもいただいているところでございます。

次に8ページに行ってください、統計査定の精緻化ということでございます。第1規制期間のCAPEX統計査定におきましては、一部の物品費・工事費については重回帰分析の検証の結果、決定係数が低く、中央値を用いた査定を行っていたということでございました。当該費用のうち、送電設備の鉄塔・架空送電線、変電設備のうちの変圧器、配電設備の柱上変圧器の工事費につきましては、当WGにおいて送配電網協議会がモデルケース等を用いた費用分析を行ったところ、各工事における原価構成や工事費総額に与える割合の多い費用の内訳ですとか、工事費総額に与える影響が大きい要因を特定することができたということでございます。

この上記品目に対する検証の結果、説明変数の設定やその組合せを工夫することで、重回帰分析の決定係数が第1規制期間の検証時を上回る水準まで向上しているということを確認しておりまして、第1規制期間において中央値査定が行われた費用のうち、今回分析の対象とならなかったものについても、今後、送配電網協議会が同様の検証を行い、さらなる精緻化を検討することで、第2規制期間以降、重回帰分析による統計査定の対象とすることも検討し得ると考えられるということでございます。

次に9ページ、先ほど少し申し上げましたが、各事業者のミクロ的検証施策の展開状況ということでございます。1ポツに書いてある内容は次の10ページ、11ページにより詳細に書いていますので、先に10ページから御覧いただければと思いますが、各事業者のミクロ的検証施策がほかの事業者にどう横展開しているかということを確認しているということでございます。こちらはマトリックスになっておりますけれども、①と書いてあるのが採用済のストック。②が今後採用予定。③が採用可否を検討中。④が不採用ということで

ございますが、赤枠で囲っているところ、こちらが採用の検討中だったり予定だったものが採用済になったということでございまして、23年度の施策では、未採用から採用に至った項目が延べ2項目あったということでございまして、これに加えて、青の枠です。こちらは具体的な採用の目途が立ったという進展のあった項目です。こちらが5項目あったということが確認できているということでございます。

次に11ページで、24年度の施策の展開状況ということでございますけれども、こちらにつきましては、赤枠、未採用から採用に至った項目が延べ5項目あったということと、青の採用の目途が立ったという項目が4項目あったということでございます。特に九州送配電の無人ヘリコプターの導入という施策が、汎用性が高く、赤枠になった事業者が4事業者あったということに加え、採用の目途が立ったという事業者も2事業者あったということでございました。

ということで、9ページに戻っていただいて2つ目のポツでございますけれども、ミクロ的検証の主たる目的である「未実施の一般送配電事業者に施策採用の検討機会を与える」ということも踏まえれば、第2規制期間に向けて、このような各社の特色ある取組等を実施・横展開することで、さらに効率化を深掘りしていくことが望まれるということを書かせていただいております。

それから12ページに行っていただきまして、当WGに関する委員及び各事業者からの意見ということでございます。各会合で、まずマクロ的・ミクロ的な検証について、委員、それからオブザーバーの方も含めて、様々な御意見をいただいたということでございまして、具体的には、マクロ的な検証においては、サプライヤー構造や発注方法の工夫等を、その要因まで詳細に分析を行うことで実態理解が深まったというコメントをいただいておりますし、ミクロ的な検証におきましては、各委員より施策の詳細を各事業者からプレゼンすることや現地視察にて現場を直接確認いただき、ほかの事業者への展開を踏まえた汎用性や金額の面以外にも、労働環境改善に向け、各事業者が努力していることが分かったといったコメントをいただいたということでもあります。

また、これまでのWGについて、各事業者からも事務局に対して以下のようなコメントが寄せられておりまして、他社の効率化施策の導入ですとか、情報共有の促進、効率化意識を高める等の観点から有用であったということでございました。具体的には、先行して効率化施策を実施する他社のプレゼン等により、施策への理解を深め、導入検討に活用することができたという意見ですとか、当WGをきっかけに、以前より他社へ効率化施策に

係る問合せや情報共有等が行いやすい環境になった。それから、社内において各部門の効率化の取組や着眼点を共有することで効率化への意識が高まり、意見交換が活性化したといったようなコメントもいただいております。さらに、現地視察に関する各事業者の振り返りとして、業界特有の厳しい環境下での工事の実態や工夫・努力を現地で委員の皆様に御説明できただけでなく、現場の作業員にとっても、注目を集める重要な職務を担っているという意識が芽生え、モチベーション向上に寄与したといったようなコメントもいただいたということでございます。

13ページ、14ページはより詳細な各事業者の意見を載せておりますが、おおむね先ほど申し上げたようなコメントをいただいたということになります。

最後、15ページで今後の進め方ということでございますけれども、当WGでは、レベニューキャップ制度の主たる目的であるコスト効率化の観点から、送電・変電・配電ごとの事業者の取組を多角的かつ詳細に確認をいたしました。このうち、効率化の検討を深掘りして、各事業者の効率化施策を他の事業者に横展開していくこと、及び重回帰分析の検証を行うことで統計査定の精緻化を図ることは、第2規制期間の料金審査に向けても有用であり、また事業者の経営効率化、ひいては国民負担低減の観点でも有意義なものと考えられる。上記を踏まえて、以下の2点については、毎年度、送配電網協議会にて取りまとめの上、料金制度専門会合で御報告いただくことで、引き続き取組状況をフォローアップしていくこととしてはどうかとさせていただいております。具体的には下にご覧いただけます2点、まず①として、効率化施策（ミクロ的検証）の検討状況の報告ということで、先ほど23年度、24年度の横展開の状況は報告させていただいたところでございますけれども、今後も一般送配電事業者が講じた新たな効率化施策の紹介ですとか、その効率化施策の横展開状況の報告といったことを送配電網協議会に行っていただければどうかと。

さらに2点目として、第2規制期間に向けた統計査定の精緻化に係る検討状況の報告ということで、第1規制期間のCAPEX統計査定において、重回帰分析の検証の結果、決定係数が低く、中央値査定が実施されている費用について、重回帰分析の適用可否の検討に向けた検証・報告、さらには、第1規制期間で重回帰分析が行われている費用についても、さらなる決定係数の向上に向けた検証・報告、こちらも送配電網協議会に実施していただければどうかということでございます。

3ポツの後段に戻っていただいて、なお、当WGの取りまとめについては、料金制度専門会合で報告することとしたいと考えておりますのと、あと4点目で、なお、2024年度の

効率化計画に関する実績につきましては現在確認中ございまして、7月以降の料金制度専門会合で検証していくこととしたいということともに、2025年度以降の効率化計画に関する実績についても、毎年度、料金制度専門会合で検証していくこととしたいということでございます。

16ページ以降は参考資料ということで、これまで議論した内容、マクロ的検証、ミクロ的検証、送変配電の費用分析、関係企業のヒアリングといったところを、概略をまとめさせていただいておりますけれども、参考資料ということで説明は割愛させていただければと思います。

私の説明は以上になります。

○松村座長 ありがとうございました。

それでは、ただいまから議題1、2に関する事務局からの説明について、質問、発言をお願いいたします。発言の意思表示につきましては、今までどおり、対面での参加の方はネームプレートを立てていただき、オンラインで参加の方はチャット欄に発言を希望される旨を記入してください。では、華表委員、お願いいたします。

○華表委員 ありがとうございます。まず事務局の皆様、そして事業者の皆様、2年超にわたる取組、本当にありがとうございました。視察とかも含めて、事務局の負荷であり、事業者さんの負荷であり、大変だったと思うのですがけれども、おかげさまで素晴らしい内容になったのではないかと、個人的には思っています。

資料でも説明されていまして、繰り返しにはなってしまうかもしれませんが、最後ということで、私としての受け止めを共有させていただきたいと思います。

先ほど申し上げたとおり、とてもいい成果が出たと思いますし、とても有意義だったのではないかと思っています。1つは、まずやはり事業者間でのベストプラクティスを共有するいいきっかけになったと思っていまして、もともと連携はされていたのだとは思いますが、より具体的な、それぞれの取組状況などを知るのにいい機会になったと思いますし、実際資料4の10ページとかを見ても、これを機会に取り入れ始めた施策があると思いますし、各事業者からの意見にもあるとおり、これをきっかけに、今後情報共有がしやすくなったということで、将来にもつながる取組になったのではないかと思っています。

2点目として、現地視察をさせていただいたのは本当にありがたかったなと思っています。百聞は一見にしかずとあるとおり、鉄塔建替え一つとっても、山奥で急峻な岩場に作られたトロッコに乗って移動して作業しているですとか、あとはすごい重い機材を持って

山を上り下りされているというのを、本当に実体験として体験させていただけたということとは、私としてもすごく勉強になりましたし、頭では分かっていますが、平坦な草原に電気設備を作るということと、山奥を切り開くようにして送電設備を作っていくというのでは、かかる労力であり、コストというのも大分違うということが、本当に実体験として理解できたというのはありがたかったと思います。

なので、全体として、大変な取組でありつつも、成果につながる取組をやっていただいて、本当にありがたかったと思っていますし、15スライドで説明されている今後の進め方についても、私としては異論ありません。本当にありがとうございました。

○松村座長 ありがとうございました。ほかに御発言の希望はありますか。村松委員、お願いいたします。

○村松委員 村松です。

ここまでのWGの推進並びに取りまとめ、誠にありがとうございました。私はWG途中からの参加のため、後段のほうだけの参加なのですが、それでも十分、皆様の御尽力、各事業者様のお取組、並びに横連携というのをつぶさに見させていただきまして、大変勉強になりました。ありがとうございました。

今日、御報告いただきました東北電力ネットワークでの視察ですが、私は今までなかなかタイミングが合わなくて、今回初めての経験だったのですけれども、まさに、現場に行かないと分からないことだらけでした。写真等では分からない現場でのお取組、限られた工期の中で、きちんとした工事水準を保ちつつ、安全性を確保する——これはもちろんのことなのですけれども、それ以外にも、今回テーマになっています効率化・新技術・コストダウン、こういったものへの取組、並びに働き方改革や環境への配慮、こういったところまで幅広に取り組んでいらっしゃるということをお伺いいたしまして、また目で見ても、大変感銘を受けました。事務局の方、並びに現場の方々にいろいろ御迷惑をかけてしまったと思うのですが、本当にありがたい経験で、ありがとうございました。

今回、まとめていただきましたWGのもたらした効果というものに対して、きちんと成果として認めてくださいまして、大変ありがとうございます。

挙げていただいたプラスの局面、横展開、横串での共有、共同での取組、例えば仕様の共通化、こういったものも含めて取り組まれているということ、好事例を横展開することによって、今までやっていなかった取組が広がっていく、こういったプラスの局面をいろいろ挙げていただきました。また現場の方のモチベーションにもつながった点は、WGを

やっている身としては、そういったプラスの効果がもたらされたことは大変よかったと思っております。

ただ、なかなか入れにくいとは思いますが、ネガティブな要素もないことはないと思います。例えば現場の方々に、こういったものに取り組まれるお時間を確保するというのは、それはそれで御負担になるかなと思っております。これは会社の中で、今後こういうものに取り組む時間というのをあらかじめ確保いただくということをお願いできればと思っております。

また、短期的に定量的な効果が、成果が得られるということだけを追い求めてしまうと、なかなか委縮してしまうといいますか、手軽なところばかりというようになりかねないので、やはりプラスの側面にフォーカスするような企業文化の醸成をお願いできればと思います。今後は、送配協がドライブしていかれると。既に送配電網投資・運用効率化委員会で取組をしていらっしゃると思いますが、ますますの横串の働きかけというのをお願いできればと思っております。料金制度専門会合の方で、その成果をお伺いできるということですので、今後もそちらをきちんと見ていきたいと思っております。採り上げられるテーマも、短期で効果が見える項目だけではなく、やはり中長期で取り組んでいかなければいけない課題も挙げていただきますけれども、例えば施工力確保とか、そういったものも今後、より横串での展開をしていただければと思います。

今後の継続に期待を込めまして、今日は感想を述べさせていただきました。どうもありがとうございます。

○松村座長 ありがとうございました。では新家委員、お願いいたします。

○新家委員 御説明ありがとうございました。新家でございます。

まず今回のWGに御協力いただきました事業会社各社様と、取りまとめに御尽力いただいた事務局の皆様、誠にありがとうございました。

もう既に両委員からも御発言があったとおり、非常に充実した内容の取りまとめになったことについて、非常によかったなと思っております。私自身も、この効率化WG、途中からの参加ということで、そういう意味で言うと、本当に最初からいろいろ勉強する機会があると、より理解も深まったなと思うぐらい、現場の方との意見交換の機会もある、充実したWGだったなと感じております。

特に15ページで取りまとめている今後の進め方というのは、全く私も異論なく、賛同したいと思っております。このWGの取組が意義深かったからこそ、今後の対応策

として、送配協さんの方でこれからイニシアチブを取っていただく、特に横展開の部分、ここは私も幾つかの現場視察も参加させていただきましたが、WGのきっかけがないと、他社の効率化施策に触れることとか、それに触れた上で導入しようかというところに、こういう場がないとなかなか検討するきっかけもないという御意見も確かあったかなと思っているだけに、これから送配協さんが主導してやる、自律的な業界としての効率化施策の横展開、それを通じた業界としてのコストダウンの取組というのはますます重要度を増してくるのかなと思っておりますので、そういったところについては、我々の立場として見る頻度というのは減るかもしれませんが、これからがより重要なのかなと思っておりますので、業界としての自律的な取組の強化にはぜひ期待したいなと思っております。

私自身も仕事柄、金額面でいろいろなことにアプローチすることが多いのですが、やはり労働力の確保、何しろ労務環境の改善、特に私の実体験で言うと、九州さんの無人ヘリのところは、私自身も一瞬だけ荷物を背負って、さすがにそれで登ることはできませんでしたが、登るだけでも大変な負担ということで、そういったことを担う方の負担をできるだけ軽減する取組の重要性というのは肌身で感じたところでもありますので、こういった労働環境の改善の視点も踏まえながら、これからも意見発信できればと考えております。

私からは以上です。ありがとうございました。

○松村座長 ありがとうございました。オンライン参加の河野委員、お願いいたします。

○河野委員 河野でございます。

御説明と取りまとめ、ありがとうございました。送配電事業者の皆様の効率化計画の進捗について、モニタリングと検証によって、送配電事業の実態から遠いところにいる私たち消費者に対しては、事業者の取組の見える化というのを目指して、このワーキングを取り組んでいただいたと思っております。事業推進において主要な4項目について、ミクロとマクロの各視点から、私からすると、それぞれの検証内容というのはかなり専門的で難しいとは思っていましたが、そうしたデータでの検証を行っていただき、また現地視察を織り込んでいただいたことで、より、事業の具体的な実態を知ることができました。当初想定したワーキングの目的を十分に果たしていると受け止めています。

特に、今申し上げたとおり、消費者にとっては8回に及ぶ現地視察、私はそのうち7回参加させていただきましたけれども、とても貴重な機会で、学ぶことが多く、事業者計画の書面などに書かれているデータの確認や、金額での評価ももちろん大事だと思いますが、

そうした机上の検証以上に現場の視察と、現場に一番近いところで働いていらっしゃる皆様との意見交換を行うことによって、効率化を進めるに当たっての留意すべき分野について、実態を伴った理解が図られたと思っています。

2年間に及ぶこのワーキングでの取組が、送配電事業者の皆様の今後の事業推進において新たな気づきとなり、また既に始まっていると御報告もいただいていますけれども、横展開など、協働・連携へ向かう端緒となってくればとても嬉しいと感じています。

最後に、今後に向けては15ページの取りまとめのとおり、料金制度専門会合の場で検証を継続していただくことに全く異議はございません。国民生活に不可欠な電力供給において、エネルギー基本計画やGX実行計画など、国内外の政策や環境変化への対応も余儀なくされるころだと思いますが、電力の安定供給の重要なインフラの維持や効率的運用のために今後も力を注いでいただければと思ったところでございます。

私からは以上です。ありがとうございました。

○松村座長 ありがとうございました。平瀬委員、お願いいたします。

○平瀬委員 平瀬です。

現地で効率化の施策を直接拝見できたのは大変よい機会でしたし、具体的な取組内容で、なるほどと実感を持って理解することができたのはよい機会だったと思います。同じように、重回帰分析などの分析手法についても大変難しい内容だと思いますが、可能な範囲でもう少し御説明や、一般の人に対する納得感というのが得られればさらによいのではないかと思います。例えば重回帰分析という統計手法においては、変数同士の関係性、線形性というのですけれども、そういう関係性を仮定している上で成り立っているのだと思いますが、そういう仮定とか、分析の限界などということももうちょっと明らかにしていただいて、他にもデータの過学習とか、あるいは変数同士の多重性とか共線性とか、いろいろな限界点があると思うのですけれども、そのような仮定を踏まえた上で一定の結論まで導いておられるというのは大変すばらしいことだと思いますが、もう少しその辺も一般の人に分かりやすく、説明していただける機会が得られれば、さらになるほどと、皆さんが納得できるのではないかと期待します。

以上です。

○松村座長 ありがとうございました。それでは浪越オブザーバーお願いいたします。

○浪越オブザーバー 消費者庁の浪越でございます。

このたびは本WGの取りまとめ等について御報告をいただき、ありがとうございました。

マクロ的検証については、送電・変電・配電の投資額の大半を占める物品、工事費のサプライヤー構造、発注形態等を検証いただいたこと、ミクロ的検証については、計20件の個別の効率化施策の効果や汎用性を検証した上で、他社への横展開が進捗していることを確認いただいたことに感謝申し上げます。

消費者庁といたしましては、マクロ的検証及びミクロ的検証による効率化の取組状況や、ミクロ的検証の取組の横展開の状況、それらによる毎年度の効率化実績について、引き続きフォローアップをさせていただきたいと考えております。

また今後の対応策として御説明いただきました一般送配電事業者が講じた新たな効率化施策についても御紹介いただくことで、他社へ横展開につながることを期待しております。よろしくお願いいたします。いずれも資料4の15ページに今後の進め方として書いていただいていると思いますが、こちらからもぜひお願いしたいということで申し上げました。

以上でございます。

○松村座長 ありがとうございました。それでは甲斐オブザーバー、お願いいたします。

○甲斐オブザーバー J R 東海の甲斐と申します。

今回、WGの取りまとめ、あとは一般送配電事業者様の効率化の取組について、御報告いただきまして、誠にありがとうございました。今回、私も途中からの参加ということで、同じ工事をする立場から、皆様がどのような取組をされているのかというところを確認させていただき、いろいろ御質問もさせていただきました。一般送配電事業者様が効率化について、いかにいろいろと工夫をしながら取組をされているかということをしつかりと勉強させていただきました。ありがとうございました。

先ほど申し上げましたが、同じ工事を実施する立場として、今、一番抱えている問題が労働力の確保というところでございます、非常に労働力確保が厳しい状況で、いろいろと労働環境を改善するなどの取組もされているのですが、まだまだ労務単価が今後も上がってくる中、限られた予算で労働力を確保しなければいけないというかなり厳しい状況が続くと思いますので、効率化の施策につきましては、他の事業者様が実施されていることを横展開していただき、効率化につなげていただいて、しっかりと労働力も確保していく、そして安定した電力を供給していくということを引き続き実施していただければと思います。今回は、このWGに参加させていただきまして、本当に勉強させていただきました。ありがとうございました。

以上です。

○松村座長 ありがとうございました。ほかに発言の御希望の方はいらっしゃいませんか。それでは、広域機関の方、お願いいたします。

○渡邊オブザーバー 電力広域的運営推進機関の渡邊でございます。

まずは事務局、委員、オブザーバーの皆様、取りまとめ、ありがとうございました。今回の取りまとめは、これまでの検証を通じて得られた知見や、ミクロ的検証施策の展開状況などについてまとめていただいたものと認識しております。まさに足元の物価等の上昇によって、一般送配電事業者の事業計画の実施に必要な費用が上昇している中において、本WGで取り扱われた効率化の取組というのは、国民負担の抑制の観点からも意義のあるものであったと考えております。広域機関としても、広域系統整備計画の策定や、その後の推進に当たり、効率化やコスト低減の検討を行っておりまして、引き続き国ともよく連携したいと思っております。

以上でございます。

○松村座長 ありがとうございました。

一通り御意見を伺いましたが、御質問は特になかったかと思います。御質問はなかったのですが、もし事業者の方で、この際、御発言したいということがあれば承りますが、よろしいですか。

では事務局から何かコメントがあればお願いします。

○黒田NW事業監視課長 委員、オブザーバーの皆様、様々なコメント、それからWGの取りまとめの受け止めをいただきまして、ありがとうございました。

皆様から、おおむね同じ方向で御意見をいただいたのかなと思っていますけれども、まずは本WGを行ったことによって、事業者間でベストプラクティスの共有が進んだですとか、横展開の取組が広がっているというようなポジティブな動きがあるということでございまして、こういった取組を我々事務局としても、今後とも継続して進めていきたいと思っておりますし、また現地視察ですとかプレゼンテーションを通じて、事業者の実態が分かったと。効率化に取り組んでいるということのみならず、施工力の確保ですとか労働環境の改善といったような、直面している課題についても理解ができたというようなコメントもいただいたところでございますので、こういったところも引き続き、我々としても実態を把握しながら、制度の検討等を進めていきたいと考えてございます。

今後につきましては、15ページに書かせていただいた進め方、おおむね御賛同いただいたのかなと思っております。特にミクロ的施策の新たな取組ですとか、横展開の状況、ま

た平瀬委員からもコメントをいただきましたが、統計査定の重回帰分析についてさらなる精緻化といった点について、今後、送配電網協議会から料金制度専門会合において報告をいただくということを通じて、我々としても引き続き、こうした取組をフォローしていきたいと考えてございます。この9回にわたる議論、ありがとうございました。

私からは以上になります。

○松村座長 ありがとうございました。ほかはよろしいでしょうか。

それでは、本日まで9回にわたってワーキングで詳細な御議論をいただきまして、誠にありがとうございました。

いただいた御意見については、今後、料金制度専門会合にこのワーキングでの内容を報告する方向で進めたいと思います。ありがとうございました。

本日予定していた議事は以上でございますので、議事進行を事務局にお返しします。

○黒田NW事業監視課長 様々な御意見、御議論いただきまして、誠にありがとうございました。WGとしましては、今回をもって取りまとめを行うこととしております。可能であれば、これまで御議論をリードいただいた松村座長から一言御挨拶をいただければと思います。

○松村座長 改めまして、今回御参加いただいた委員、オブザーバーの皆様、経済産業省や電力・ガス取引監視等委員会の皆様、当ワーキングの御議論に御協力いただいた多くの方々、大変ありがとうございました。

最初に挨拶で、送配電事業の構造をより深く知り、より正確な統計査定ができるようになることと、各界で送配電事業者の方がこんなに努力をされていて、こんなに効率化されていることが十分に伝わり、さらに先進的な取組の横展開により、コスト効率化が進展していることを示すことが重要だと申し上げました。今回、マクロ的・ミクロ的な視点で設備の詳細や各事業の取組、業界大での取組を確認することにより、対外的にも一般送配電事業者の取組を一定程度オープンにすることができたと思います。第2規制期間以降の査定にも資する検証ができたのではないかと考えます。

2023年5月から今回で9回のWGを重ねてきましたが、送配電事業に関連する様々な分野の有識者にお声がけし、さらにサプライヤーの方々にもプレゼンをいただきました。このような多くの方々の知見も取り入れることができたのは大変良かったと思います。またサプライヤーの方からは、このワーキングでは受け止め切れないが、とても重要な指摘を多くいただいたと思います。決して無視したわけではなく、この後、料金制度専門会合、

あるいはさらにその上の委員会の議論で十分生かしていきたい、頭に入れて議論していきたいと思います。

また現地視察においては、一般送配電事業者の方に御協力いただき、ありがとうございました。とても勉強になりました。ありがとうございました。

ワーキングでいろいろな事例を教えていただいたのですが、私自身は全てが理解できたわけではなく、まだ疑問が残っているところが少しあります。これについては、恐らく料金制度専門会合などでまた御質問するということがあるかと思います。御迷惑をおかけすることがあるかもしれませんが、どうかお許しください。

しかし、それよりも多くの部分が、少なくとも数行の説明で分かった気になっていたようなことが、詳細に現地視察も含めて教えていただいて、これは、ここで書かれている印象よりもはるかに重要な取組だということを、多くの点で理解することができたと思っています。効率化金額に直してしまうと、この程度 of 金額になるとしても、背後には、もっと大きなインパクトがある。ここで省力化、あるいは現場の負担軽減をしないと、業界がそもそも持続可能でなくなるというようなものについて、大きな取組をされている。さらに、私たちが思っている以上にいろいろなことを深く考えておられて、いろいろなことを考えた上で、こういうのを出してこられたのだということが、多くの点で理解できたと思っています。私にとってもとても勉強になりました。ありがとうございました。

本来は、費用を負担していただく消費者の方々に広く知っていただくことが重要ですが、少なくともこういう議論に参加する我々のような人間が理解しなければ、伝えるのはとても難しいと思います。その意味でも、多くの点で理解ができたことは、私にとって、とてもありがたいことでした。ありがとうございました。

○黒田NW事業監視課長 松村座長、ありがとうございました。

続きまして、事務局を代表しまして事務局長の新川より一言御挨拶させていただきます。

○新川事務局長 電力・ガス取引監視等委員会の事務局長をしております新川でございます。

事務局を代表いたしまして、松村座長、また御参加いただきました委員、オブザーバーの皆様、大変御多用の中にもかかわらず、一昨年の5月から約2年間、延べ9回にわたる当WGへの御協力に心から御礼を申し上げる次第でございます。

また、委員の皆様には、現地の視察にも御参加いただきまして、ありがとうございました。準備をいただきました一般送配電事業者各社の皆様にも心から御礼を申し上げる次第

でございます。

言うまでもございませんが、送配電部門は、我が国の社会経済、国民経済を支える、なくてはならない社会インフラの典型であると理解をしております。先ほど委員の方からも御指摘がございましたけれども、厳しい自然環境の中、日頃から送配電網の維持・更新・拡張に御尽力いただいております一般送配電事業者の皆様の御努力には心から感謝と敬意を表する次第でございます。

他方、送配電部門の資機材の調達や工事は、託送料金に直結するものでございますので、その改定の審査などを行う際には、事業に対しての理解が不足していることもあって、コストが高いという御批判を受けることもままあると認識しておりますが、今回、送配電事業の構造や設備の内容、効率化の取組を詳細に確認することができました。また、一般送配電事業者の皆様が相互に学び合い、改善していこうという取組が更に進んできたことも大きな成果だと思っております。これも関係者の皆様の御努力、御尽力のおかげでございまして、改めて感謝申し上げる次第でございます。

レベニューキャップ制度は、投資の確保とコスト効率化の2つの大きな目標が掲げられております。今後も送配電投資を着実に進めていくためには、同時にコスト効率化を図ることが大前提であり、第2規制期間に向けた制度検討に当たっては、当WGで御議論いただいた内容や知見も活用してまいりたいと思っております。

改めまして、松村座長や委員の皆様、オブザーバーの皆様、一般送配電事業者の皆様の御協力に感謝を申し上げます。ありがとうございました。

○黒田NW事業監視課長 本日の議事録については、案が出来次第送付させていただきますので、御確認のほどよろしく願いいたします。

それでは、第9回送配電効率化・計画進捗確認WGはこれにて終了といたします。本日はありがとうございました。

——了——